

紙枚数計数機 高速化成功



FPGAを搭載した紙枚数計数機の開発を担当した村井博研究管理員（中央）と、大蔵工業青森事業所技術部の馬場和人部長（右）、高橋力さん＝29日、五戸町

「紙枚数計数機は印刷出版業界などで使われる。従来品は、計数のみでは最大で毎分2500枚が可能な。一方、同社は10年以上前からページの並び順検査などの機能を加えた業界」

村井博研究管理員は「製品の限界を突破できる可能性がある。県内企業でもFPGA技術を用いた製品開発が進めば」と普及を進める考えだ。

デジタル回路、速度2.5倍

紙枚数計数機は印刷出版業界などで使われる。従来品は、計数のみでは最大で毎分2500枚が可能な。一方、同社は10年以上前からページの並び順検査などの機能を加えた業界

同社は、同研究所が主催した講習会を通じてFPGAに着目。同研究所機械システム部の村井博研究管理員によると、FPGAは自由にプログラムを書き込むことで独自の回路が設定でき、これまで同社が搭載していたマイコンよりも高速な並列処理が可能になる。

大蔵工業（五戸）と県八戸工業研

世界で唯一、並び順や印刷のずれなどを検査しながら、自動で紙の枚数を数える紙枚数計数機「カウントロン」を製造する大蔵工業青森事業所（五戸町）が、青森県産業技術センター八戸工業研究所との共同研究で、処理速度を2.5倍にすることに成功した。同研究所が普及に

力を入れる書き換え可能なデジタル回路FPGA（Field Programmable Gate Array）を搭載することで、大幅な高速化が可能になった。関係者は製品のシェア拡大に加え、県内企業でのFPGA活用にも期待を寄せる。

（出川しのぶ）

令和元年7月30日 デーリー東北 掲載

※この画像は、当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。